

令和5年度 第2回定例会

日時：令和5年10月19日（木） 13：00～15：30

場所：笠利総合支所 3階会議室

参加機関：（別紙参加者名簿参照）

全体進行：前田（笠利いきいき健康課）

協議進行：辻原（ていだ）

※敬称略
出席者 44名

1. 事業所紹介

就労支援B型事業所「こころ」

2. 専門部会報告

- ・ピア部会（田代：ゆらい）
- ・精神部会（貴島：奄美病院）
- ・相談支援部会（向：チャレンジサポート奄美）
- ・子ども部会（座安：のぞみ園）
- ・就労支援部会（木場：あまみ就業・生活支援センター）
- ・地域移行支援部会（津村：オリーブの丘）
- ・権利擁護部会（中田：宇検村保健福祉課）

3. 全体協議

「居宅介護サービスが少ない地域の現状と課題について」

○グループワーク発表

◎1G（奄美市社協①、QOLEAD①、大島郡医師会、のぞみ園①、いきいき健康課①）

- ・人材不足、高齢化、新規採用者の不足などが課題
- ・給料アップができればよいが、簡単ではない。（福祉業界全体の課題）
- ・難しくても将来的にベースアップは必要。
- ・一人でヘルパーが行く際に不安感が強く、二人体制など考えると人材が不足してくる。
- ・様々なところで、学生などとの交流や啓もう活動が大切。
- ・民間事業所の良いアプローチをもっと取り入れていくのもよいのではないか。
- ・グループホームに集約する
- ・事前に資金を徴収しておいて、料理にする。その料理の材料をB型事業所の仕事にするなど回るように対応していく。

◎2G（奄美市社協②、カラフル、なかぼつ、大島支庁①、龍郷町子ども子育て応援課）

- ・ヘルパー利用時に、利用者がいないことがある。
- ・入院中でも登録しているため、新規の受け入れができない。
- ・時間帯的に難しいこともある。
- ・給料も
- ・奄美市に集中している。
- ・加算があればよい
- ・給料見直しもだが、業務内容を見直す必要がある。
- ・研修を増やし、ヘルパーを増やす
- ・食事対応など

- ・ 専門学校の科目にヘルパーに関するものを入れてもらう。
- ・ 行政が副業としてヘルパーができるようにしてはどうか。

◎3G（奄美市社協③、オリーブの丘①、北大島手をつなぐ育成会、奄美市福祉政策課①、いきいき健康課①）

- ・ 人材不足（現状難しい） 要求に対応したいが、ヘルパーの高齢化もあり、体力的にも難しさがある。
- ・ 近隣の市町村との連携も考えられるが、移動時間がネックになる。
- ・ 若いヘルパーが働ける環境づくりも必要だが、そもそも若い世代がいない。
- ・ 事業所の開所日を、土日にあける事業所なども提案してみる。

◎4G（奄美市社協④、あゆみ、こころ、大島支庁②、いきいき健康課②）

- ・ ヘルパー不足、若い世代に人気がない。
- ・ 生活介護、掃除支援はシルバー人材、事業所に夕食支援なども公式に活用できたらよい。
- ・ 送迎時に買い物支援を行えないか。
- ・ 介護保険との連携、助成金の活用など

◎5G（奄美市社協⑤、オリーブの丘②、奄美病院①、のぞみ園②、龍郷町保健福祉課）

- ・ 人材不足、待遇問題
- ・ 入所施設の不足、利用者の高齢化
- ・ ヘルパーの希望により、入れない時間帯もある。
- ・ 障害の状況によって給料に差を設ける。
- ・ 学生をヘルパーに同行し、魅力を伝えられたら良い。
- ・ 土日に開所するB型事業所があればよい。
- ・ 若い世代が仕事に興味を持てるよう、育成のための補助金などがあればよい。

◎6G（奄美市社協⑥、のぞみ園③、滝の園、ハローワーク名瀬、宇検村保健福祉課）

- ・ ヘルパーの障害理解が乏しい。
- ・ 短時間でマッチングするところがあればよい。
- ・ 地域の見守りや声掛けも必要。

◎7G（カナン、介護支援専門員協議会、チャレンジドサポート奄美、ゆらい、奄美病院②）

- ・ 利用したい時間が重なっている。
- ・ 給料のベースアップが必要。
- ・ 若い男性の身体介護の調整が難しい。
- ・ ハラスメント的な言動でヘルパーが辞めてしまう。
- ・ 依存的になってしまう現状もある。
- ・ 自立に向けた支援が必要。支援者、利用者ともに意識の変化が必要。
- ・ 定期的にアセスメントでどの程度ヘルパーを利用するのか見越した計画が必要。
- ・ 地域の有償ボランティアを活用しては。

- ・出水市の取り組み事例の紹介（ぴあヘルパー）
- ・ヘルパー講座も必要。

◎8G（Q O L E A D, 星の園、奄美病院③、奄美市福祉政策課②）

- ・奄美市でも、地域格差が大きい。
- ・官民でシステムを考えることが必要。指定基準など、サービスが提供しやすいシステムづくりを協議する必要がある。
- ・生活困窮などとも連動していく。

奄美市社協 里氏

- ・いろいろな意見を聞くことができた。

奄美市社協 山田氏

- ・社協も民間事業所だが、公的な意味合いも強い
- ・今後、行政と社協が担って
- ・みんなで知恵を絞ればアイデアは出てくる。
- ・いろんなところと連携しながら進めていきたい。

事務局 大津

- ・地域生活を行う上で大事なサービスである
- ・公助の部分も大切
- ・障害のある方は関係性が希薄なこともある。
- ・公的な福祉サービスは重要
- ・限られた資源を適切に使うために、アセスメントが重要
- ・研修のあり方。適切な支援ができるように
- ・協議会としては地域で工夫することに加えて、国や県に挙げていくことも必要。
- ・大島地区連絡協議会などに、提案していく。